

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立館山さざなみ学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・少人数での学習や児童の実態に応じて、学習を展開することができた。
- ・東京ベーシックドリルを用いて既習事項の学習を振り返り、児童の実態を把握することができた。

(2) 課題

- ・個人差があり、事項の定着が不十分な児童には、個の力に応じた支援を行ってきたが、当該学年の学習も進めていかなければならないため、さらなる時間が必要になってくる。
- ・授業内で個別の支援を行っていくためには限度があるため、宿題やICTを活用し知識の定着について、反復学習を行っていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全体的に目標値を下回っている。		
第5学年	全体的に目標値を下回っている。	全体的に目標値を上回っている。（4年生時）	
第6学年	全体的に目標値を下回っている。	全体的に目標値を下回っている。（5年生時）	全体的に目標値を下回っている。（4年生時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習事項の「大きい数」「小数」「分数」などは身につけている。「かけ算」「わり算」は計算ができておらず、目標値を下回っている。	・「□を使った式」や説明する問題では、問題を読み取れていないため、目標値を下回っている。	・「時こくと時間」「表とぼうグラフ」では、表などを見て考えることができておらず目標値を下回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「小数」や「分数」について理解が不十分なこともあり、計算ができておらず、目標値を下回っている。	・「折れ線グラフと表」や「円グラフや帯グラフ・平均」において、グラフから情報を読み取れていないために、目標値を下回っている。	・「いろいろな形」や「多角形と円・合同」では、作図ができなかったり、記述での回答で理由が説明できなかったりしているので、目標値を下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業の導入に、既習事項を確認する時間を設け、さらに自信をもって取り組めるようにする。 ・タブレットドリルなども用いて計算問題に繰り返し取り組ませ、確実にできるようにしていく。	・演算決定の根拠を明確にするために、文章に沿って図に表す活動を取り入れたり、説明したりする場面を多くする。 ・文章問題では、必要な情報を読み取ることができるように整理したり、図や絵を用いたりなどして、視覚的に設問を理解できるようにする。	・電子黒板やタブレットなどの ICT 機器を有効活用することで、児童の興味関心をもたせた学習指導を行う。 ・日常生活において時間や数字を意識させる声掛けを行ったり、授業で具体物を用いるなどを通して、算数的活動を多く取り入れ、問題解決ができるようにしていく。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・単元ごとにレディネステストを実施して習熟度別にクラスを編成し、個別に目標をもって学習に取り組ませるとともに、既習事項で理解していないところを把握して、できるようにしていく。 ・単元の終了ごとに、タブレットドリルを用いて復習をし、理解度を把握していく。	・友達の考え方を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、問題を解決できる経験をさせ、多様な考え方のよさを実感させる。 ・図形は、具体物や図を活用して考えさせ、図形の理解を定着させるとともに、応用問題を多く行うことで、課題を解決できるようにする。	・電子黒板やタブレットなどの ICT 機器を有効活用することで、児童の興味関心をもたせた学習指導を行う。 ・考え方のヒントを提示したり、自分で振り返ったりすることで、問題解決するための方法と答えの見通しをもたせてから、自力解決に取り組ませることを習慣づける。